

平成 29年 09月 04日

国土交通大臣 殿

地域型住宅グリーン化事業 適用申請書
【平成29年度】

本申請書の内容により、地域型住宅グリーン化事業の適用を申請します。
この申請書及び添付資料に記載の事項は、事実と相違ありません。

地域型住宅の名称 ふくしま・若き大工と創る家

グループの名称 福島県大工業協会青年部

直近採択グループ番号 04-0627-0152

(グループ代表者)

代表者名 大橋 祐一 代表者印
代表者所属先 株式会社大橋工務店
代表者所在地 福島県南会津郡南会津町永田字西俣110
代表者電話番号 0241-62-1000

(グループ事務局)

事務局事業者名 株式会社田浦
事務局担当者名 田浦 英典 印
事務局郵便番号 967-0004
事務局所在地 福島県南会津郡南会津町田島字元八幡甲315-4
事務局電話番号 0241-62-1168
事務局FAX 0241-62-4668
事務局担当者E-mail aruat@pium.plala.or.jp

| | | | | | | | | | | |
|---|---|-----------------------------|-----------------------------|---------|--------|----------------|-----------------|----------------|----------------|---|
| B. 平成29年度における補助対象の木造住宅の申請要望戸数、地域材加算要望戸数、三世帯同居対応加算要望戸数(必須) | 長寿命型(長期優良住宅) 経験工務店による申請戸数 | 申請が確実(上限100万円) | | 1 | 戸 | | | | | |
| | | 加算申請 | 上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円) | | 1 | 戸 | | | | |
| | | | 上記の内、三世帯同居加算の申請が確実(上限30万円) | | | 戸 | | | | |
| | | 申請が未確定(上限100万円) | | 11 | 戸 | | | | | |
| | | 加算申請 | 上記の内、地域材加算の申請が未確定(上限20万円) | | 11 | 戸 | | | | |
| | | | 上記の内、三世帯同居加算の申請が未確定(上限30万円) | | | 戸 | | | | |
| | 長寿命型(長期優良住宅) 未経験工務店による申請戸数 | 申請が確実(上限100万円) | | | 戸 | | | | | |
| | | 加算申請 | 上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円) | | | 戸 | | | | |
| | | | 上記の内、三世帯同居加算の申請が確実(上限30万円) | | | 戸 | | | | |
| | | 申請が未確定(上限100万円) | | 2 | 戸 | | | | | |
| | | 加算申請 | 上記の内、地域材加算の申請が未確定(上限20万円) | | 2 | 戸 | | | | |
| | | | 上記の内、三世帯同居加算の申請が未確定(上限30万円) | | | 戸 | | | | |
| | 高度省エネ型(認定低炭素住宅)の申請戸数 | 申請が確実(上限100万円) | | | 戸 | | | | | |
| | | 加算申請 | 上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円) | | | 戸 | | | | |
| | | | 上記の内、三世帯同居加算の申請が確実(上限30万円) | | | 戸 | | | | |
| | | 申請が未確定(上限100万円) | | 3 | 戸 | | | | | |
| | | 加算申請 | 上記の内、地域材加算の申請が未確定(上限20万円) | | 3 | 戸 | | | | |
| | | | 上記の内、三世帯同居加算の申請が未確定(上限30万円) | | | 戸 | | | | |
| | 高度省エネ型(性能向上計画認定住宅)の申請戸数 | 申請が確実(上限100万円) | | | 戸 | | | | | |
| | | 加算申請 | 上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円) | | | 戸 | | | | |
| | | | 上記の内、三世帯同居加算の申請が確実(上限30万円) | | | 戸 | | | | |
| | | 申請が未確定(上限100万円) | | | 戸 | | | | | |
| | | 加算申請 | 上記の内、地域材加算の申請が未確定(上限20万円) | | | 戸 | | | | |
| | | | 上記の内、三世帯同居加算の申請が未確定(上限30万円) | | | 戸 | | | | |
| 高度省エネ型(ゼロ・エネルギー) 経験工務店(4戸(8戸)以上)による申請戸数 | 申請が確実(上限150万円) | | | 戸 | | | | | | |
| | 加算申請 | 上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円) | | | 戸 | | | | | |
| | | 上記の内、三世帯同居加算の申請が確実(上限30万円) | | | 戸 | | | | | |
| | 申請が未確定(上限150万円) | | | 戸 | | | | | | |
| | 加算申請 | 上記の内、地域材加算の申請が未確定(上限20万円) | | | 戸 | | | | | |
| | | 上記の内、三世帯同居加算の申請が未確定(上限30万円) | | | 戸 | | | | | |
| 高度省エネ型(ゼロ・エネルギー) 未経験工務店(4戸(8戸)未満)による申請戸数 | 申請が確実(上限165万円) | | 1 | 戸 | | | | | | |
| | 加算申請 | 上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円) | | 1 | 戸 | | | | | |
| | | 上記の内、三世帯同居加算の申請が確実(上限30万円) | | | 戸 | | | | | |
| | 申請が未確定(上限165万円) | | 3 | 戸 | | | | | | |
| | 加算申請 | 上記の内、地域材加算の申請が未確定(上限20万円) | | 3 | 戸 | | | | | |
| | | 上記の内、三世帯同居加算の申請が未確定(上限30万円) | | | 戸 | | | | | |
| C. 平成29年度当初予算における補助対象の優良建築物の申請要望棟数及び床面積 | 優良建築物の申請棟数 | 申請が確実 | 棟 | / | | | | | | |
| | | | m ² | | | | | | | |
| | | 申請が未確定 | 棟 | | | | | | | |
| | | | m ² | | | | | | | |
| D. 当提案が採択された場合の各住宅事業者における補助対象戸数の配分ルール(必須) | 理事会にて、配分の割合を各事業所の着工棟数により決定する。尚、未経験事業者を優先的に配分する。 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| E. 平成28年度の執行状況(必須) | 長寿命型(長期優良住宅) | | | | | | | | | |
| | 当初予算 | 採択戸数 | 10 | 戸 | 交付申請戸数 | 8 | 戸 | 完了実績(竣工予定含む)戸数 | 7 | 戸 |
| | 補正予算 | 採択戸数 | 0 | 戸 | 交付申請戸数 | 0 | 戸 | 完了実績(竣工予定含む)戸数 | 0 | 戸 |
| | 高度省エネ型(認定低炭素住宅) | | | | | | | | | |
| | 当初予算 | 採択戸数 | 0 | 戸 | 交付申請戸数 | 0 | 戸 | 完了実績(竣工予定含む)戸数 | 0 | 戸 |
| | 補正予算 | 採択戸数 | 0 | 戸 | 交付申請戸数 | 0 | 戸 | 完了実績(竣工予定含む)戸数 | 0 | 戸 |
| | 高度省エネ型(性能向上計画認定住宅) | | | | | | | | | |
| | 当初予算 | 採択戸数 | 0 | 戸 | 交付申請戸数 | 0 | 戸 | 完了実績(竣工予定含む)戸数 | 0 | 戸 |
| | 補正予算 | 採択戸数 | 0 | 戸 | 交付申請戸数 | 0 | 戸 | 完了実績(竣工予定含む)戸数 | 0 | 戸 |
| | 高度省エネ型(ゼロ・エネルギー住宅) | | | | | | | | | |
| | 当初予算 | 採択戸数 | 3 | 戸 | 交付申請戸数 | 1 | 戸 | 完了実績(竣工予定含む)戸数 | 1 | 戸 |
| | 補正予算 | 採択戸数 | 1 | 戸 | 交付申請戸数 | 0 | 戸 | 完了実績(竣工予定含む)戸数 | 0 | 戸 |
| 優良建築物型 | | | | | | | | | | |
| 当初予算 | 採択棟数 | 0 | 棟 | 交付申請戸数 | 0 | 棟 | 完了実績(竣工予定含む)棟数 | 0 | 戸 | |
| 当初予算 | 採択床面積 | 0 | m ² | 交付申請床面積 | 0 | m ² | 完了実績(竣工予定含む)床面積 | 0 | m ² | |

| | | |
|--|---|------------------------|
| 1. 地域型住宅の名称・対象地域(必須) | (地域型住宅の名称) ふくしま・若き大工と創る家 | (地域型住宅供給対象地域) 福島県全域 |
| 2. グループの名称・結成年(必須) | (グループの名称) 福島県大工業協会青年部 | (結成年) 2015年 |
| 3. 過去のグリーン化事業採択グループ番号(必須) | 04-0627-0152 | |
| 4. 地域型住宅グリーン化事業のねらいに対する取り組み ※記入した内容において「必ず実施する取組み」の場合は◎印、「グループが目指す目標」の場合は○印を右欄に記入してください。 ※住宅と建築物(非住宅)の両方を申請する場合において、取組に違いがある場合は、その旨を具体的に記入してください。 | | |
| ア. 特徴ある地域型住宅の目標設定 | | |
| 【平成29年度対応方針】 | | ◎、○ 記入欄 |
| ① 地域の気候・風土等に根差した地域型住宅の重視する性能 | 福島県全域に会員がいる本会では、越後山脈と奥羽山脈に挟まれた日本海側内陸性気候で全域が豪雪地帯(半数以上が特別豪雪地帯)の会津地方・奥羽山脈と阿武隈高地に挟まれた太平洋側内陸性気候で冬は日本海側気候の影響を受けやすく降雪が比較的多い中通・阿武隈高地と太平洋に挟まれた海洋性気候で黒潮の影響で年間を通して過ごしやすいが台風の影響を受けやすい浜通りと寒冷地から温暖な地域と多岐にわたる。そのため、断熱性能が各地域により大きく違いが出てくるため断熱性能を重視していく。 | |
| ② 地域の気候・風土等に根差した地域型住宅の建て方や様式 | 福島県は北海道・岩手県に次ぐ三番目に面積が広い。また、日本海の北部から西部に連なる飯豊連峰・越後山脈の山岳地帯、中部を南北に横断する奥羽山脈、東部の阿武隈高地は八溝山地へと連なる。広大な面積と多くの山々からなる本県は「松」群生の北限とされ、また、寒冷地から温暖な地域と多岐にわたるため針葉樹から広葉樹などの多くの樹種・良材に恵まれ幅広い地域に合わせた構造計算に基づく適材適所の構造部分に県産材を用いていく。 | |
| ③ 地域の気候・風土等に根差した地域型住宅のデザインルール | 福島県地域の中で豪雪地帯(半数以上が特別豪雪地帯)の会津地方は雪割りなどに代表される屋根の形状が特徴で、現代様式を取り入れた豪雪地帯に対応するデザインとし、中通りは標高差が北から福島盆地の65mに始まり郡山盆地の240mそして、白河盆地の360mと南に行くにつれて高くなり盆地特有の気候を有する。また、奈良時代から中山道が通り江戸時代に奥州街道となり古来より街道筋として栄え県内経済の中心となったため街道筋の美観に即したデザインとする。浜通りは黒潮の影響で温暖で穏やかな気候となり、北関東との繋がりが非常に強い地域の為、軒をあまり出さないデザインとする。 | |
| ④ ①～③の背景 | 福島県は会津地方・中通り・浜通りと各地域に亘り気候・風土に大きな違いがある。若手大工を中心とした本会では、各地域に亘る会員の特徴を生かしながら福島県産木材の活用を行う事で県面積1,378,375㎡の7割が森林が占め多くの山脈・高知などの景観保全に繋げる。また、東日本大震災以降各地域において、木材への風評被害による一次産業の衰退に追い打ちを掛ける形となる事が見られ福島県の一次産業の活性化・風評被害の払拭の為に各地域の大工職人が手を取り合い共に地元の復興のために尽力を尽くすため本会を立ち上げる。 | |
| ⑤ その他 ※上記項目以外でグループ独自のルール・目標があれば記入してください。 | 県産材を使用する事により森林の自然の力を活用し木材を育てるため人間の手により苗木を植え、建物に使用する良質な原木を永続的に再生清算可能な林業サイクルを成り立たせるためにもその基礎となる大工工務店の担い手を育てるべく江戸時代中期に確立した継手などの伝統工法を若き職人に伝えていく。 | |
| イ. 効率的な住宅生産体制の整備 | | |
| 【平成29年度対応方針】 | | ◎、○ 記入欄 |
| a | | |
| ①-1 用材の寸法規格化 | <input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: 気候が多岐にわたるため構造計算に基づき主要構造材の寸法を確定し化粧梁などは県産木材を用いる。 | ◎ |
| ①-2 使用建材の統一 | <input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: 各地域により気候の特性が違うため勉強会を開催することにより各地域ごとの使用建材と統一できる使用建材を確認し整備していく。 | ○ |
| ①-3 標準仕様の設定 | <input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: 各地域により気候の特性が違うため勉強会を開催することにより各地域ごとの標準仕様と統一できる標準仕様を確認し整備していく。 | ○ |
| ②-1 建材・資材調達の商品化 | <input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: 事務局を中心とした管理体制を構築し県産木材の流通を推進する。 | ◎ |
| ②-2 調達事務の合理化 | <input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: 事務局を中心とした管理体制を構築する。 | ○ |
| ③ 生産の合理化等に向けた検討委員会等の設置 | <input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: 各施工者の代表により生産効率の向上を図るための検討会を2ヶ月に一回開催する。 | ◎ |
| ④ 生産の合理化等に向けて事務局が果たす役割 | <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 検討会にて協議決定した内容を構成員メンバーに通知すると共に、適正な施工が行われているかチェックを行う。 | ○ |
| b | | |
| ① グループの信頼性向上に向けた施工基準 | <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 各地域により気候の特性が違うため勉強会を開催することにより各地域ごとの施工基準と統一できる施工基準を確認し整備していく。 | ○ |
| ② グループの信頼性向上に向けた検査ルール | <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 上記項目で決定した内容及び図面通りの施工が行われているかの検査を事務局を中心に行う。 | ○ |
| ③ グループの信頼性向上に向けた見積・積算のルール | <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 各地域により基礎・構造・屋根の形状に違いが出てくるため見積り・積算のルール化の勉強会を開催する。 | ○ |
| ④ グループの信頼性向上に向けたその他の具体的な取組 | <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: ホームページを活用した事例紹介や住宅フェアなどのイベントに参加して地域型住宅グリーン化事業への取り組みをアピールする。 | ◎ |
| その他 ※上記項目以外でグループ独自のルール・目標があれば記入してください。 | 福島県全域に会員がいる本会では、寒冷地豪雪地帯から温暖な地域と多岐にわたる。そのため、各地域により寸法、性能、仕様が大きく違いが出てくるため、統一の基準と各地域の基準を検討会により決めていく。 | ○ |

※) 行の高さについては記載する文章の長さなどにより適宜、調整して下さい。

| | | |
|---------------------------|-----------------------------|------------------------|
| 1. 地域型住宅の名称・対象地域(必須) | (地域型住宅の名称) ふくしま・若き大工と創る家 | (地域型住宅供給対象地域) 福島県全域 |
| 2. グループの名称・結成年月(必須) | (グループの名称) 福島県大工業協会青年部 | (結成年) 2015 年 |
| 3. 過去のブランド化事業採択グループ番号(必須) | 04-0627-0152 | |

4. 地域型住宅グリーン化事業のねらいに対する取り組み ※記入した内容において「必ず実施する取組み」の場合は◎印、「グループが目指す目標」の場合は○印を右欄に記入してください。
※住宅と建築物(非住宅)の両方を申請する場合において、取組に違いがある場合は、その旨を具体的に記入してください。

ウ. 長期にわたる住宅メンテナンス体制の整備

| 【平成29年度対応方針】 | | ◎、○ 記入欄 |
|---|--|------------|
| a | | |
| ① | 住宅履歴情報の蓄積 | |
| ①-1 | 内容・蓄積の共通ルール <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 事務局が中心にデータを取りまとめ蓄積する。 | |
| ①-2 | 情報サービス機関の活用 <input checked="" type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある → 内容: | |
| ①-3 | 履歴情報蓄積の確認手法 <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 事務局案内により各施工者に確認する。 | |
| ② | メンテナンス基準の整備 | |
| ②-1 | 点検の共通ルール <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 5年毎に1度を標準とする | |
| ②-2 | 補修の共通ルール <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 各地域において、各箇所劣化の差が生じるため検討会を行い共通基準及び各地域に即した物を | |
| ②-3 | 点検補修実施の確認手法 <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: グループで共通シートを作成して実施、事務局に報告する | |
| ③ | 住まいの管理 | |
| ③-1 | 住まい管理勉強会の実施 <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 住宅フェアやイベントに積極的に参加して、その中で周知を計る。 | |
| ③-2 | DIY体験会等の実施 <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 住宅フェアやイベントに積極的に参加して、その中で周知を計る。 | |
| ③-3 | その他の相談会等の実施 <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 住宅フェアやイベントに積極的に参加して、その中で周知を計る。 | |
| ④ | 維持管理委員会等の設置 <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 各企業より代表者を選出し維持管理について各地域ごと及び共通ルールを委員会にて検討する | |
| ⑤ | その他の維持管理の手法 <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 委員会により検討決定したものとする | |
| b | | |
| ① | グループ構成員の倒産廃業時のバックアップルール <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 倒産企業が出てきた場合は、対応委員会を設置し協議運営して行く。 | |
| ② | 過去の瑕疵内容等に学ぶ勉強会の実施 <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 外部講師をまねき開催する。 | |
| その他 ※上記項目以外でグループ独自のルール・目標があれば記入してください。 | | |

エ. グループの技術力の向上

| 【平成29年度対応方針】 | | ◎、○ 記入欄 |
|---|---|------------|
| a | | |
| ① | 未経験工務店等への施工技術研修会等の開催 <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 長期優良住宅勉強会を中心に、構造勉強会や経験のある工務店が直接現場等に行き指導していく | |
| ②-1 | 品質管理のための共通ルール <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 検討委員会をつくりマニュアルを作成しそれに基づく | |
| ②-2 | 上記共通ルールが守られていることの確認手法 <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 各ルール実施を事務局に報告する | |
| ③-1 | 需給計画の策定 <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 外部よりコンサルタント会社を入れ計画を策定する | |
| ③-2 | 技術力向上のための中長期的な計画 <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 定期的に勉強会を開催し技術力を高める | |
| ④ | ③に基づく業種ごとの合理化の取組 <input checked="" type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある → 内容: | |
| b | | |
| ①-1 | 省エネ技術講習会への施工事業者社員の参加人数 昨年度までの終了者数 18 今年度の参加目標人数 2 | |
| ①-2 | 省エネ技術講習会への請負技能者等の参加人数 昨年度までの終了者数 15 今年度の参加目標人数 2 | |
| ② | 省エネ技術講習会への参加促進のための取組 <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: Webサイトを通じ呼びかけをしていく | |
| c | | |
| ① | 新たな技術等の導入 <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 耐震・断熱などの新しい技術をメーカーに説明してもらい導入について検討する | |
| ② | 新たな技術等の開発 <input checked="" type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある → 内容: | |
| その他 ※上記項目以外でグループ独自のルール・目標があれば記入してください。 | | |

※) 行の高さについては記載する文章の長さなどにより適宜、調整して下さい。

| | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|------------------------|---------------------------|--|--------------------------|--|----------------------------------|-----|----------------------------------|-----|-------------------------------|----|-------------------------------|--|
| 1. 地域型住宅の名称・対象地域(必須) | (地域型住宅の名称) ふくしま・若き大工と創る家 | (地域型住宅供給対象地域) 福島県全域 | | | | | | | | | | | | |
| 2. グループの名称・結成年月(必須) | (グループの名称) 福島県大工業協会青年部 | (結成年) 2015年 | | | | | | | | | | | | |
| 3. 過去のブランド化事業採択グループ番号(必須) | 04-0627-0152 | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 地域型住宅グリーン化事業のねらいに対する取り組み ※記入した内容において「必ず実施する取組み」の場合は◎印、「グループが目指す目標」の場合は○印を右欄に記入してください。 ※住宅と建築物(非住宅)の両方を申請する場合において、取組に違いがある場合は、その旨を具体的に記入してください。 | | | | | | | | | | | | | | |
| オ. 地域の産業・住文化・景観等への寄与 | | | | | | | | | | | | | | |
| 【平成29年度対応方針】 | | ◎、○ 記入欄 | | | | | | | | | | | | |
| a | <p>地域材利用に関する</p> <p>① 共通 ルール(必須)</p> <p>② 地域材利用の1棟当たりの割合(必須) □ 50%未満 ■ 50%以上 □ 80%以上</p> <p>③ 標準的な地域材の使用部位(必須)</p> <table border="1"> <tr> <td>主要構造材</td> <td>土台: □ 使用していない ■ 使用している</td> </tr> <tr> <td></td> <td>柱: □ 使用していない ■ 使用している</td> </tr> <tr> <td></td> <td>梁・桁等の横架材等: □ 使用していない ■ 使用している</td> </tr> <tr> <td>羽柄材</td> <td>間柱、根太、垂木等: ■ 使用していない □ 使用している</td> </tr> <tr> <td>造作材</td> <td>枠材、廻縁等: ■ 使用していない □ 使用している</td> </tr> <tr> <td>板材</td> <td>壁板、床板等: ■ 使用していない □ 使用している</td> </tr> </table> <p>④ 地域材の流れ(フロー図)などグループの取組に関する補足説明</p> <p>積算をする際に主要構造材を構成員の製材業者と事前協議し地域材を利用していく。</p> <p>設計(主要構造材の決定)⇒施工・プレカット(積算及び製材業者選定)⇒製造業者(材料の選定・原木手配)⇒原木供給業者(原木の確保)⇒製造業者(納品)⇒プレカット・施工⇒設計(材料確認)</p> | 主要構造材 | 土台: □ 使用していない ■ 使用している | | 柱: □ 使用していない ■ 使用している | | 梁・桁等の横架材等: □ 使用していない ■ 使用している | 羽柄材 | 間柱、根太、垂木等: ■ 使用していない □ 使用している | 造作材 | 枠材、廻縁等: ■ 使用していない □ 使用している | 板材 | 壁板、床板等: ■ 使用していない □ 使用している | |
| 主要構造材 | 土台: □ 使用していない ■ 使用している | | | | | | | | | | | | | |
| | 柱: □ 使用していない ■ 使用している | | | | | | | | | | | | | |
| | 梁・桁等の横架材等: □ 使用していない ■ 使用している | | | | | | | | | | | | | |
| 羽柄材 | 間柱、根太、垂木等: ■ 使用していない □ 使用している | | | | | | | | | | | | | |
| 造作材 | 枠材、廻縁等: ■ 使用していない □ 使用している | | | | | | | | | | | | | |
| 板材 | 壁板、床板等: ■ 使用していない □ 使用している | | | | | | | | | | | | | |
| b | <p>①-1 地域材在庫把握の仕組</p> <p>□ ない ■ ある → 内容: 原木供給業者より在庫数に関する情報を提供し構成員にて把握する。</p> <p>①-2 地域材価格の共有の仕組</p> <p>□ ない ■ ある → 内容: 原木の価格は常に推移するため原木供給業者より毎月価格に関する情報を提供し構成員にて把握する。</p> <p>② グループ全体における地域材の需給予測</p> <p>□ 行っていない ■ 行っている → 内容: 一棟当り6.5㎡と換算し110.5㎡の需給の予想となる。</p> | ○ | | | | | | | | | | | | |
| c | <p>①-1 畳の活用</p> <p>□ 行っていない ■ 行っている → 内容: 今年度の使用予定枚数(1畳換算) 4.5 枚</p> <p>①-2 和瓦の活用</p> <p>■ 行っていない □ 行っている → 内容: 今年度の使用予定枚数: 坪</p> <p>①-3 襖の活用</p> <p>□ 行っていない ■ 行っている → 内容: 今年度の使用予定枚数(3×6換算) 2 枚</p> <p>①-4 障子の活用</p> <p>□ 行っていない ■ 行っている → 内容: 今年度の使用予定枚数(3×6換算) 2 枚</p> <p>②-1 その他地域の伝統的な素材の活用</p> <p>□ 行っていない ■ 行っている → 内容: 各地域で検討し積極的に活用する。</p> <p>②-2 その他地域の伝統的な意匠の活用</p> <p>□ 行っていない ■ 行っている → 内容: 各地域で検討し積極的に活用する。</p> | ○ | | | | | | | | | | | | |
| d | <p>① 地域の伝統的なデザインを継承する取組</p> <p>□ 行っていない ■ 行っている → 内容: 各地域の特性を生かすための設計勉強会を開催する。</p> <p>② 地域の住まい方の継承につながる取組</p> <p>□ 行っていない ■ 行っている → 内容: 設計する際、各地域の風土・風習・習慣に即した間取りの提案を行う。</p> <p>③ 地域の街並み形成へ寄与する取組</p> <p>□ 行っていない ■ 行っている → 内容: 旧街道沿い・農村部等原風景に合わせた外部デザインに心掛け景観に配慮する。</p> <p>④ 和の住まいの要素を取入れた取組</p> <p>□ 行っていない ■ 行っている → 内容: 真壁や畳コーナー等を積極的に間取りに用いていく。</p> | ○ | | | | | | | | | | | | |
| その他 ※上記項目以外でグループ独自のルール・目標があれば記入してください。 | | | | | | | | | | | | | | |
| カ. その他 | | | | | | | | | | | | | | |
| 【平成29年度対応方針】 | | ◎、○ 記入欄 | | | | | | | | | | | | |
| 東日本大震災の復興に資する取組 | 福島県は特に原発による風評被害がいまだに強く、一次産業への影響が特に大きい。本会では、県産木材の安全性を広く一般の方に広める努力を行い風評被害の払拭に力を入れる。 | ◎ | | | | | | | | | | | | |
| 平成28年熊本地震の復興に資する取組 | | | | | | | | | | | | | | |

※) 行の高さについては記載する文章の長さなどにより適宜、調整して下さい。

| | | |
|----------------------------|-----------------------------|------------------------|
| 1. 地域型住宅の名称・対象地域 (必須) | (地域型住宅の名称) ふくしま・若き大工と創る家 | (地域型住宅供給対象地域) 福島県全域 |
| 2. グループの名称・結成年月 (必須) | (グループの名称) 福島県大工業協会青年部 | (結成年) 2015 年 |
| 3. 過去のブランド化事業採択グループ番号 (必須) | 04-0627-0152 | |

4. 地域型住宅グリーン化事業のねらいに対する取り組み

キ. グループが取り組む木造住宅・建築物の特徴

※この項目は、高度省エネ型、優良建築物型を申請するグループのみ記入してください。

※申請に係る認定低炭素住宅、性能向上計画認定住宅、ゼロ・エネルギー住宅、優良建築物の性能や特徴等について記入してください。

グループ全体で高度省エネ型住宅建設を推進していきまた、未経験工務店の施工によりグループ全体の住宅性能に関する意識を底上げし省エネルギーに寄与する。

- ①外皮性能の向上 等級4以上
- ②開口部性能の向上 Low-Eペアガラス以上
- ③照明器具はLEDを使用
- ④冷暖房・給湯機器は高効率機器を使用
- ⑤節水型トイレ・水栓を使用
- ⑥断熱材浴槽を使用